

給文

機密

部内第 3 號

62

今後探ルヘキ戦争指導ノ基本大綱ニ關シ
御前會議經過概要

昭和廿年六月八日
於 官 中

陸 軍

一 參謀總長代理河邊參謀次長

參謀總長ニ代ツテ帝國陸軍今後ノ作戰ニ關スル所信ニ就テ申上マ

ス

沖繩本島ノ作戰ハ皇軍ノ陸海空ニ亘ル決死敢闘ニヨリ敵上陸開始

以來二箇月有餘ノ間頑クテ優勢ノ敵ニ對シテ見ル大ナル敵的戰

000 61

0505

果テ敵ノソツ今日ニ至リマシタカニ上ノ戦況ハ昨今相當ノ苦境ニ
立至リマシタ

陸軍統帥部ト敵シマシテハ今後英海軍ト協力敵シマシテ此方面ニ
推進強化セラルルニキ敵艦隊基地ノ制壓ヲ續行敵シ敵戦力ノ消耗敵
爾後ノ進攻遲滞ニ努力敵シ所存アリマス

一方敵ハ對日戦争ノ短期終結ニ無慮敵シ居ル模様テアリマシテ在
敵兵力ノ東洋回航ニモ努力シソツアリマスルカ故ニ今ヤ近々東亞
ノ各方面殊ニ直接東亞本土ヘノ敵ノ進攻ヲ豫期スヘキ情勢ヲ示ス
ニ至リマシタ

0506

皇國本土及其ノ周邊ノ作戰ニ方リマシテハ陸軍ハ海軍ト合体的
 緊密ナル協同ノモト先ツ主トシテ航空戦力ヲ活用敷シ極力敵ヲ洋
 上ニ撃滅スルコトニ努メ其ノ上陸ヲ見ル場合ニ於キマシテハ「ガ」
 島作戰以來欲スルモ發揮シ得マシテシテ帝國陸軍主力ノ運用ニ
 ヲリ敵ニ決戦ヲ求メ得ルト存シマス

本土ニ於ケル作戰ハ從來各方面ニ於ケル孤島等ノ作戰ト其ノ本質
 ニ於テ懸ク異ニシ今後愈々長遠トナル海路ニ背後連絡線ヲ保持シ
 テ東攻スル敵ニ對シ其ノ上陸點方面ニ我カ主力軍ヲ機動集中シ大
 ナル總兵力ヲ以テ進軍不斷ノ攻勢ヲ強行シ得マシト其ノ所圖也

000 62

0507

2

ノ利ヲ得且忠誠燃ユル全國民ノ協力ヲモ期待セ得ル次第ニアリマシ
 テ此等ニ本土決戦必成ノ根柢ヲ見出し得ルト信シマス
 即チ大體ニ於キマシテ從來ノ離島及遠洋ノ作戰ニ於キマスルノト
 凡ソ彼我ノ立場ヲ反對ニスルノ態勢ヲ示スノチアリマス
 故ニ我レ一度敵上陸軍ニ對シテ攻勢ヲ發揮致シマスレハ岸上ニ
 陸上戦ルトコロニ全軍ヲ擧ケテ刺進ノ取法ヲ以テ臨ミ敵ヲ大海ニ排
 斬殲滅セスレハ斷シテ攻勢ヲ中止セサルヲ緊固ナル信念的統帥ニ
 シ致ス皇軍傳統ノ精華ヲ發揮シ必ス捷利ヲ獲ルモノト確信致シテ
 ル次第ニアリマス又皇國獨特ノ空中及水上特攻攻撃ハ一トイフ

68

陸軍

戦以來敵ニ痛烈ナル打撃ヲ與ヘテ來タノテアリマス力果次ノ輕
驗ト研究ヲ重クマシテ諸點モアリ今後ノ作戰ニ於キマシテ益々其
ノ成果ヲ期待致シテ居ル次第デアリマス

尙今後愈々殲烈化スル敵ノ空襲ニ對處シ諸般ノ防禦態勢ヲ強化シ
我カ國力ヲ維持シ特ニ戦力根源ノ掩護ニ努力ヲ傾倒致ス所存デア
リマス

右ニ申シ上ケマシタ必捷ノ信念ヲ基トシ今ヤ軍ハ舉ケテ愈々果斷
維持ノ烈々タル氣味ノ下ニ著々作戰準備ニ邁進致シテ居リマシテ
築城ノ促進、本土決戦態勢訓練ノ向上、後方諸策等亦々進歩

00 63

0509

又點も少ナカラヌアリマス力逐次必據航路ノ完整ニ愈々ツツアル
次第ヲアリマス

若シ敵ニシテ急速ニ本土ニ進攻致シマセヌ大國ノ一部等ヲ含メテ
航空基地ヲ擴充強化シ我カ本土ニ對シ所謂對鎖的戰略ヲ企圖致ス

ニ對シマシテハ陸軍ト海軍ト協同シ航空軍艦隊ニ努力シ敵ヲシテ其
其ノ企圖ヲ斷念セシムルコトハ國土ニ基地ヲ直接保有シ得マス我
我カ航空ノ現態勢ニ於キマシテ敢テ蓋難ノ策トハ考ヘマセン

作戰上ノ所信ハ右ノ通テ御座イマスカ一層附加致シマスレハ對米
作戰ノ完遂ヲ期スルカ爲ニハ對蘇關係ニ於テ絕對ノ靜謐ヲ保持致

68

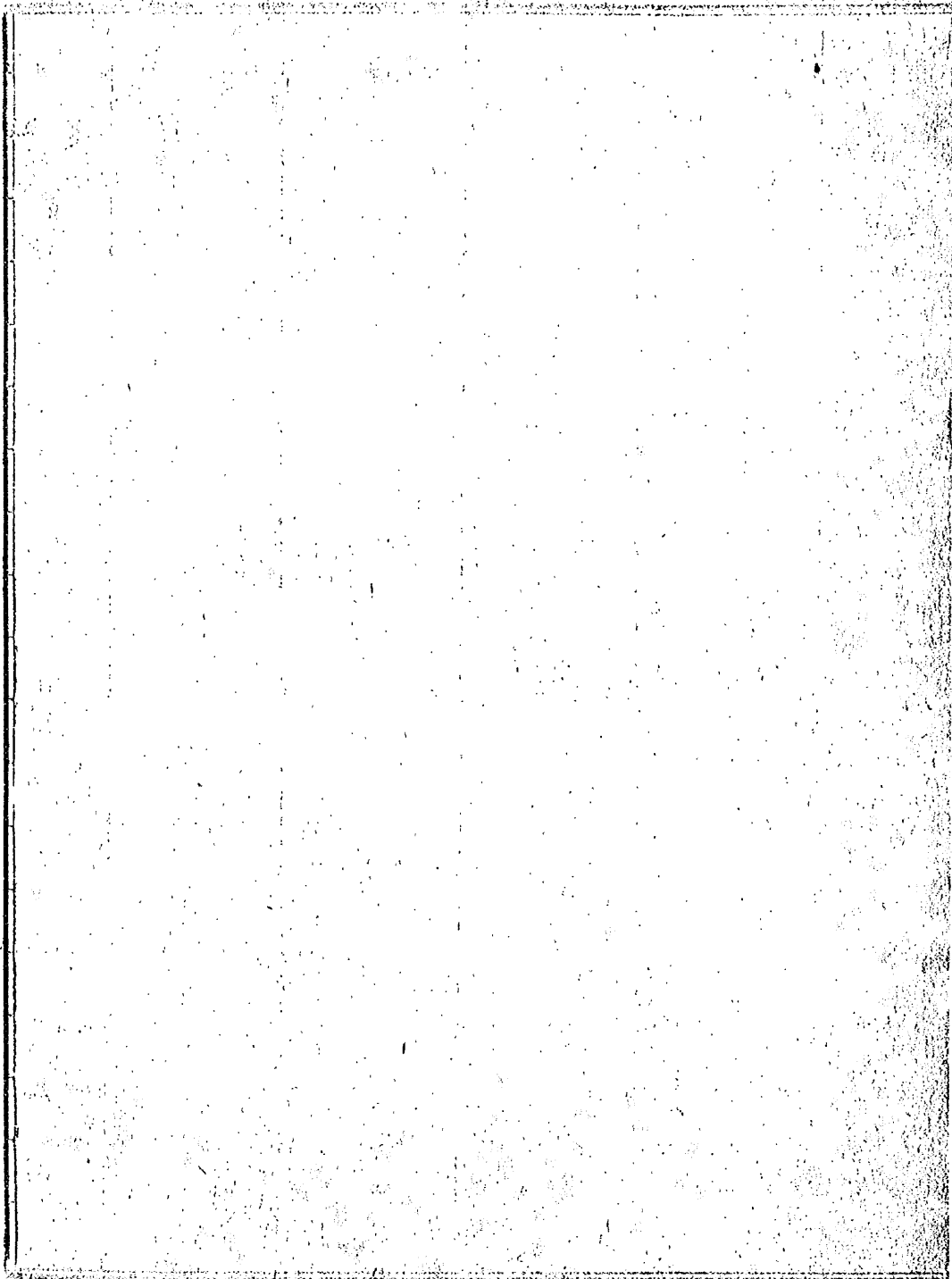
陸軍

シマスルコトカ戦争指導上確守スヘキ根本要件ノ一ナルコト申ス
 迄モアリマセン故ニ軍ハ對蘇作戰準備ノ急遽整備ニ方リマシテ特
 ニ此ノ點ニ付細心ノ注意ヲ加ヘアルトコロデアリマス
 然レナカラ之カ積極的對策トシテ對米作戰ノ完遂ヲ期シ敵ノ進取
 ニ對シ決定的打撃ヲ與フルコトカ蘇邦ヲシテ北邊ヲ窺フノ弊障ヲ
 カラシムル所以デアルト信シテ居ル次第ヲ御座リマス

(終)

00 64

0511



0512

一 軍令部總長

(4) 敵情判斷

沖縄ノ作戰ハ敵ニ大出血ヲ興ヘ其ノ結果ハ敵爾後ノ進攻ヲ難延
セシメタリ

機動部隊ニ對シテハ相當ノ打撃ヲ興ヘ其後ノ進攻ヲ難延
再整備ヲ了ル迄ハ飛躍的ノ進攻ハ困難ナハナイカト思フ
沖縄ノ戦況如何ニ拘ラズ敵艦隊ハ活潑ニ之ヲ實行スル
次期作戰ニツキマシテハ速急進攻ヲ企圖スルヲ望ム

66

陸
軍

000 65

0513

5

故に陸側の兵力ヲ以テ本土上陸ノ爲メ準備ヲシテキルモノト
 思フ。又直路關東平地ニ上陸スルコトヲ企圖スルモノト思フ
 事トモ沖縄ノ損害ノ爲メ又適當ナル航空基地ヲキリ爾日有
 ナル機動部隊ヲ伴ハサルヘカラスルヲ以テ時間ヲ要スルモノ
 思フ。從テ九州及四國ノ一部ヲ占領シテ航空飛行根據地ヲ求
 ム。後關東平地ニ作戦スルコトヲ考ヘサレバ此ノ場合九州及
 四國ニ上陸スルハ七、八月頃、關東平地ニ上陸スルハ本年秋
 以降ト判断ス

東京小笠部

0514

67

陸軍

沖繩ニ續キ徳ノ島、喜界ヶ島、奄美大島ノ攻略ヲ企圖スルナラ
 シ
 尙沖繩、薩黃島、「マリアナ」ノ航空基地ノ強化ヲ圖リ本土爆
 撃ヲヤリ大膽トノ交通遮断ヲ企圖スルモノト考ヘル。従テ北部
 日本海以外ノ航海ハ困難トナルヘシ
 濟州島ノ上陸ハ大陸トノ交通ヲ遮断スル爲又内地ノ上陸ノ基地ヲ
 ツクル意味ノ價值アリ。中支及真以北ノ作戰ハ飛行基地トシテ
 着目シ悉クテ六、七月頃行フヘシ。南支、佛印ニ對シテハ美軍

ヲ進体トシテ進攻スルナラン

千島及北海道方面ハ準備作戦ノ程度ナラン但シ「ソ」ノ南方如
何ニヨリテハ俄爾目ヲ攻勢ヲ採ルナラン

(四) 作戦ノ見透

以上ノ如キ情勢判断ノ下ニ陸海軍ノ協同戦備ハ本土決戦ニ着目
ヲ置テ其他ハ持久又ハ遊撃ノ任務ヲ與ヘル

本土ニ於テハ飛行機。水上。水中ノ特攻ニヨリ海上撃滅ヲ圖ル
但シ短敷ケ月ハ海上ニ於テ全部ヲ撃滅スルコトハ出来ナイナリ

0516

ト陸軍ノ飛行機及水上特攻ヲ使用キハ敵艦ヲ六、七月頃ニ進
 攻シ來ル場合ハ其ノノ本隊前ニ於テ擊滅シ得
 六、七月頃以降ニ於テハ物ノ整備ニ於テハ上昇スル機體ナル者
 進襲ノ影響上現在以上ハ無量ト考ヘラレシ
 此ノ如キ情勢ニ於テハ生産ノ維持特ニ飛行機、燃料ノ取手進進
 上絶対ノ條件ト考ヘル

一 軍需大臣

第一四半期ノ實績ヲ見ルニ米ト鹽ノ内地ヘ入り方カ悪イ、尙石炭

66 67

0517

カウチン動カナイキニ重要物資カ下題アサキル

種穀、鹽ヲ重點トキハ一般物動ハ概傾少ナリ

本年第一四半期ハ銅材30%、燃料、火藥40-70%（前並ニ對シ）

ナリ。飛行機ニツキテハ原料材料サヘアレハ月二千機ヲ確保シ得ル
ノ目途アリ

現在疎開ツヤツサキルコトト關聯工業ノ停頓ニヨル影響アリ

神風カ失陥セハ此ノ影響ハ更ニ悪化スルモノト考ヘル。要ハ大艦

ヨリノ輸送力確保如何ニヨル從テ交通、防衛ニツキ南分ハ重要ス

陸軍

陸軍省、シヤハ軍部及關係省、協力シテ手段ヲシテ責任
ヲシテシヤハ体制ヲ急進ニ進メテ行キテイト考ヘル

一 陸軍大臣

陸軍省ハ陸軍ノ基幹件ニ領ハサレテ波多スルノ巴ムナキ状況ニ
アリテシヤハ之ノ生産ハ陸軍ノ要切キ農民ノ協力トシテヨリ事變前ノ
状態ヲ維持セザキル、場所ニヨリテハ事變前ヨリヨキキヨロカア
ル、何レモ人口ノ多イ我國ニ於テハ食糧ヲ海外ニ求メテシヤハ
キルハ現前ニテハ、糧食ノ供給ニ極メ急進ニ國內產物強化ノ必要

米生シテ米ヲキル、コレニハ努力シテキルカ農産生産ノ特價上直
チニ効果ヲ收メルコトハ出来ナイ

本年供給力ノ不足ハ一三〇万石アアル商運入口ノ整理、配給段
階ノ整理、農産配給及業務用外食料ノ配給、農産供出増、古麥ノ
使用、防強都市備蓄米ノ使用ヲ以テ四六七万石程度出ルケレトモ
額不足八一三万石アアル

コレノ爲メハ朝鮮及滿洲ヨリ入レルヨリ外ナレバノ輸入ノ最モ速
速ニ原料増産ニ努力スルモ現狀用、船舶量、軍備米ノ輸入等ノ關

係上取得至難ナリ、然ルニ六四五万石ハドウシテモ必要テアル四
 二五万石ハ例トカシテトレルモノトシテ三三〇万石ノ不足ヲ忍ハ
 キハナラズ其他一アルコトハ一用トシテ九〇万屯不足シテキル、
 現在輸入費額不良ニシテコレヲ如何ニシテ充足スルカカ今日ノ最
 大問題ナリ、勞務ノ充足、農材消費ノ壓縮、都道府縣ヨリノ流
 用、官廳ノ早掘、米ノ早期出荷等ヲヤリ尚二〇〇万石不足スルソ
 ニテ現存ノ穀類運送維持ハ不可能、同時ニ國內交通ノ維持ヲ考ヘル
 必要ナルニ相違ナシ、應速ニ余策ヲササレル

90

又科學的技術的措置ヲトリ少シテモ輕影響ヲ防止シタ
本年ノ事件ハ不良ヲ因テ五〇〇万石ノカ流用出來
農商省トシテハ餘リ多事ニシテ、幾メテ最後ノ深信カ二〇〇万石
アルニシテ投入スルハ補ヒカシカナクナル、最低量ヲ破ルコトヲ
一國ニ早ク圖成ニ期シセタイト思フカ民心ノ動向。職意ノ昂揚ニ
注意スルハナクテ本件ハ農商大臣ノ意向ノヨリ以テ之ヲ決定
シ得タイ根ヲ大體定メ派スルキ時期ニ副應シテキルヲ望ム
此ノ際統帥部及軍政方面ヘオホカニ影響シタイトハ作戦ト一ノ必

0522

要領ノコトヲアル、民備ノコトヲ等ヘテ軍部ノ意欲ヲ示シテモラ
ヘルナラハ最低基準量ヲ制ル爲ノ大ナル影響ヲ与リト考ヘル

外務大臣

英米「ソ」支ノ動向ニツキテハ同感ナリ、「アメリカ」ノ戦争指
導ニツキテハ種々ノ困難性ノアルノハ事實ナルヲ日本ヲ短時間ニ
屈伏セシメ無條件降伏ヲ企圖シテキル、英國ハ米國ニ完全ニ追隨
シテキルカラ英米間ヲ離隔スルコトハ出来ヌ、英米「ソ」ノ離間
ハ歐洲問題、近東問題、世界平和機構ノ確立問題等ニテ種々カ起

陸軍

66 70

0523

ルモノト考へル、世界平和ノ決定ハ三國ノ態度如何ニヨリテ決ス
ルモノニシテ悉ク三者ノ關係ヲ制ルコトハ不可能ナアル

「ソ」聯ハ昨年日本ニ對シ侵略國呼ハリシ本年ニナリテ中立國ト
シテノ態度ヲ捨テヤウトシテキル事實上對敵行爲ニ出スルノ自由
ヲ操ツタモノト考へル

外交ハ戦局ニ左右セラレル後テ將來中立關係ヲ維持シ得ルヤ否ヤ
ハ今後ノ戦局ニ左右セラル、トヨロ大ナルノイナラヌ「ソ」ハ日
本ハ實ケルカタウトノ見解シツツケテキルノテ外交ハ然レ困難テ

96

陸軍

アル、一ソレヲヤテ中立ヲ維持スルニ努力ヲセザル
 シカシ、嚴正中立以上ノ好意的中立ヲトセザルヨトハ、戰局轉變
 レハ不可能ナアル。重慶ニ對シテハ、イハ、ヤツヲ見ルベシトモ
 戰局上日支間ノキレ和平ハ不可能ナアル。日支全面和平ヲムル
 トハ日米全面和平ニナラサルヲ得ナク、假令重慶ニ對シテハ、彼等
 ナル態度ヲ執ルモトハ努力ノ餘地ナク、又假令ナク

一 平沼騷擾院議事

昨夜此ノ會開ヨリ、ヤツヲ復議スルニ其結果了解セ、彼等ハ斷然暴行ナ

000 71

0525

リシカ只今各大國カラノ説明ニテモ、略了解ナリ

又今後ノ作戦ニシテ、ハ陸軍部及軍令部ニテモ、周到ナル計畫

カ立テラレテキルコトヲ知リ、此ノ點ニテモ十分了解ナリ

参考ノ爲一言ス、世界情勢判斷、國力ノ現狀等、報告ヲ受テ、此

トキ當局ノ非常ナル努力ニ拘テ、今後ノ戰争遂行ニハ、非常ナル注意

難ナルコトヲ痛感スル故、物量、科學ノ應用ハ、極力テ注意イテ

キルコトヲ對テ、我國ノ物量及科學ノ應用ハ、努力ニシテ、今後

スルテ、トモ之ニ對抗スルコトハ、極力テ注意イテ、戦争ノ遂行ニ

東京小津橋

陸軍

考慮シテケレハナラヌ。假令時東國難ナリトイフコトハモトモ
 明瞭ナリ。付テハコレカ對策ヲ總立スルコト必要ニシテコレカ今
 日審議セラレルトコロナアルト思フ。此ノ大綱ニハ方針ト要領ト
 カアルカ何レモ新クアルヘキモノト思フ。只今ニ國体ヲ擁護セ
 アルニ國体ノ擁護ハ平時時ヲ違フ難度トイフ海陸ノ努力ヲ要スル
 モトト思フ

我國ハ内亂ノ爲國体ニ汚點ヲ生シタルコトハアルヤレトモ何レモ
 御授成ノ下直ニニ舊ニ復シテキル。大化ノ改新。嘉武ノ中興。明

00. 72

0527

12

治維新何レモ國體ヲ損スルコトナカシキハ朝野一致ノ然ラザルニ
 ノチアル、今因ハ政體ノ善成ハ我國體ヲ汚點ニ法スルコトナシ
 トイフノハ英米ノ憲法ニ由リ國體ヲ守ル之ニ法ハセシキナリ
 策ヲ講スルノ要アリ國體ハ我國體ヲ汚點ニ法スルコトナシ
 イキナリ備スルニ由リ國體ニ疑問ノ念ヲ起サシムルコトナシ
 此點ニツキテハ國民全部ノ精力ヲ注シ要アリ、夫ニ
 皇太后保衛トナシルニ由リ美ヲモトハ國家ノ亡マシキナリ
 策ヲ講スルコト即チ強國目的ノ達成ヲ期スルコトナシ

東京小津結

陸軍

然乎アリ如何ナルコトカアツテモ之ヲ益クムルコトハ大切ト察
ヘル

要領ニアルコトハ何レモカダアタキハナラズ、何モ云フコトナ
シ

之カ成功ヲ期スル爲ニハ申ス迄モタラシ生産ノ指導、食糧ノ備蓄
其ノ他必要ナル事項ハ多キナルモ當局ノ絶大ナル努力ノコトト
思フ。之ニ併行シテ大切ナルモノトハ國民精神ニ關スル事項ナリ
コレニツイテ最も注意スルモノトハ戰時ノ特殊ナル不測

000 73

0529

ナルトキ國民ハ悲觀シ易イコトニ食糧不足ヲ伴フト非常ニ動ク
レ易クナルト後ヲ思フニハ斷斷ノ處置ヲ十分トシ務メカアル
ト思フ

但シ權力ヲ以テ蓋ムコトハ強クテ法外ヲ要スル權力ヲ以テ蓋ム
コトハ不良人ノ感化ヲ防止スルニ止マリ根本ハ國民精神ニ喚起
入りテ之ヲ善導スルコトハ益クシ得ナイ。故ニ權力ト併行シテ
教化ニ後ヲコトシ要スル救急策ハ開國以來一貫ニテ有餘ヲ以テ
國民道ニテオラレル。故ニ天恩ヲ教化第一主義ヲ採ルニテ

陸軍

之ニ反スルモノハ兵力ヲ以テ盛マシメテ方針ハ今日ト雖モ變化ハ
 イ。當局トシテモ此ノ意キ御精神ヲ体シテ國民ニ宣マキハナラズ
 即チ國民精神ノ根底ニ喰ヒ入りテ之ヲ毒導スルコトハ務メ戦力ノ
 向上トナル。今日國民ノ忠誠心ハ失ハシテラヌ祖先ノ遺風ヲ顧影
 スルコトハ万人ニ其心アリ然レ時ト時影ヲ生スルコトハ東方ニ
 今日先ツ注意セキハナラズ且モトハ一戰事ハ下ラサルカトハ
 テアツテ人心ヲ引キ寄ルモノトモ思ハズ
 戦力ノ昂揚。忠誠心ノ發露ヲ十分ヤラキハナラズ

00 74

0531

14

平和ヲ希望スルモノトハ決シテ誤リナシトヘイ(一)ニテカ今國體ノ
 迄戰爭ヲ完遂セズハナラズトシテ總對シテ平和ノ思想ハイマレノ
 アハナラズ、自己安易ヲ求ムル精神ハ最モ不可ナリ也也也也也
 平和ヲ望當ト考ヘル人アルモ今日戰亂ヲ起シテナラズト
 今國民ニ此ノ心ヲ出テ自由ノ中大事ヲ行ハシメテ國體ノ
 物化善導ニテ國民精神ノ根本ニ喰ヒ入リテ是正スルニ必ズ
 也、皆然ニテナラズトスル也

(吉澤東野原書院)

東京小津納